

M3T-MR308/4, M3T-MR308, M3T-MR30/4 およびM3T-MR30ご使用上のお願い

M16Cファミリ用リアルタイムOS M3T-MR308/4, M3T-MR308, M3T-MR30/4 および M3T-MR30の使用上の注意事項を連絡します。

- ディレクトリパス名に空白文字を含むディレクトリへのインストールの注意
- 統合開発環境High-performance Embedded WorkshopにおけるリアルタイムOSプロジェクト生成方法の注意

1. ディレクトリパス名に空白文字を含むディレクトリへのインストールの注意

1.1 該当製品

M32C/80, M16C/80および M16C/70シリーズ用
M3T-MR308 V.1.20 Release 1 ~ M3T-MR308 V.1.20 Release
1B
M3T-MR308/4 V.4.00 Release 00 および M3T-MR308/4
V.4.00 Release 01

M16C/60, M16C/30, M16C/20, M16C/10および M16C/Tinyシ
リーズ用
M3T-MR30 V.3.30 Release 1およびV.3.30 Release 2
M3T-MR30/4 V.4.00 Release 00

1.2 内容

該当製品を、ディレクトリパス名に空白文字を含むディレクトリ
へインストールする時、「指定されたインストール先に問題があり
ます。」という警告が表示されますが、警告は無視してOKボタ
ンを押してください。すると、「インストール先ディレクトリを
再設定してください」と表示されるので、「いいえ」ボタンを押
してください。インストールが開始されます。

2. High-performance Embedded WorkshopにおけるリアルタイムOSプロジェクト生成方法の注意

2.1 該当製品

M3T-MR308/4, M3T-MR308, M3T-MR30/4 およびM3T-MR30

2.2

内容

該当製品を以下のいずれかのCコンパイラパッケージと組み合わせ、プロジェクトの生成およびビルドする場合、High-performance Embedded Workshopの設定方法が従来と異なります。

- M32C/90, M32C/80, M16C/80, およびM16C/70シリーズ用
Cコンパイラパッケージ M3T-NC308WA V.5.41 Release 00以降
- M16C/60, M16C/30, M16C/20, M16C/10, M16C/Tiny および R8C/Tinyシリーズ用
Cコンパイラパッケージ M3T-NC30WA V.5.42 Release 00以降

2.3

High-performance Embedded Workshopの設定方法（図解はこちら ; PDF, 407KB)

以下の(1)~(3)の手順で設定する。

- (1) 新規ワークスペースを作成する際に、New Project-2/6-Select RTOSダイアログのRTOSドロップダウンメニューからM16C Family MRxxx V.x.xx Release xx を選択する。
- (2) オプションを以下のとおり設定してください。

M3T-MR308/4またはM3T-MR30/4を使用する場合：

- (a) Renesas **** Standard ToolchainダイアログボックスのLinkタブをクリックする。
注：**** は使用するCコンパイラパッケージにより異なる。
- (b) CategoryドロップダウンリストからInputを選択する。
Show entries forドロップダウンリストからLibrary filesを選択する。

AddボタンをクリックするとLibrary directoryとLibrary fileがツリー表示されるので、Library fileをクリックして、Add library fileダイアログボックスを開く。

- (c) Library nameテキストボックスに以下を記入して、OKボタンをクリックする。
M3T-MR308/4を使用する場合：
mr308.lib,c308mr.lib
M3T-MR30/4を使用する場合：
mr30.lib,c30mr.lib
- (d) Renesas **** Standard ToolchainダイアログボックスのRTOSタブをクリックする。
- (e) CategoryドロップダウンリストからuITRON Specificationを選択する。
- (f) uITRON versionタブで4.0を選択する。

M3T-MR308およびM3T-MR30を使用する場合：

- (a) Renesas M32C(M16C) Standard ToolchainダイアログボックスのCタブをクリックする。
- (b) CategoryドロップダウンリストからSourceを選択する。
Show entries forドロップダウンリストからDefinesを選択する。
AddボタンをクリックするとAdd Defineダイアログボックスが開く。
- (c) Macroテキストボックスに、far_msg を入力する。
メールボックス機能で32ビットメッセージを使用する場合は、Replacementテキストボックスに、1 を入力する。
6ビットメッセージを使用する場合は、0を入力する。
OKボタンをクリックしてAdd defineダイアログボックスを閉じる。

- (d) Renesas **** Standard ToolchainダイアログボックスのLinkタブをクリックする。
- (e) CategoryドロップダウンリストからInputを選択する。
Show entries forドロップダウンリストからLibrary filesを選択する。
AddボタンをクリックするとLibrary directoryとLibrary fileがツリー表示されるので、Library fileをクリックしてAdd library fileダイアログボックスを開く。
- (f) Library nameテキストボックスに以下を記入して、OKボタンをクリックする。

M3T-MR30を使用する場合：

- メールボックス機能で16ビットメッセージを使用する場合：
mr30.lib,c30mr.lib
- メールボックス機能で32ビットメッセージを使用する場合：
mr30lm.lib,c30mrlm.lib

M3T-MR308を使用する場合：

- メールボックス機能で16ビットメッセージを使用する場合：
mr308.lib,c308mr.lib
- メールボックス機能で32ビットメッセージを使用する場合：
mr308lm.lib,c308mrlm.lib

- (3) Renesas **** Standard ToolchainダイアログボックスのOKボタンをクリックして閉じる。

【免責事項】

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。